


平成10年春季特別展

縄紋の祈り・弥生の心

— 森の神から稲作の神へ —

4月25日(土) ▶ 6月28日(日) 主 大阪府立弥生文化博物館
協 読売新聞大阪本社・読売テレビ

■開館時間:午前10時~午後5時(入館は4時30分まで) ■休館日:毎週月曜日(5月4日[月]・5日[火]は開館、6日[水]は休館) ■入館料:個人
=一般600円・高大生400円・小中生・65歳以上は無料、団体=一般480円・高大生320円(団体は20名以上) ■所在地:〒594-0083
和泉市池上町443 TEL:0725-46-2182 ■交通:JF阪和線天王寺駅から25分「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分

 大阪府立弥生文化博物館

考古学セミナー

時間=午後2時~4時(1時から受付)
場所=1階ホール

第1回/5月10日(日)
岡田 康博 青森県教育庁・主幹
「豊かなる縄紋時代
—三内丸山の世界—」

第2回/5月17日(日)
酒井 龍一 奈良大学・教授
「結界の弥生祭祀」

第3回/6月7日(日)
松澤 貞子 神戸女学院大学・教授
「台湾先住民の儀礼」

第4回/6月21日(日)
館長(金関 恕)と学芸員
「縄紋と弥生のまつり」

●全回参加者には修了証と記念品を
贈呈致します。

本館学芸員による展示解説(特別展示室)
毎週日曜日・祝休日/午前11時~

大きな把手のついた土器

【縄紋時代中期 山梨県安道寺遺跡】



縄紋の祈り・弥生の心

人知では計り得ない自然の驚異、そして誕生と死。それらに直面した古代人たちは、万物を司る精霊や神という存在を想うことで解釈しようとしてきました。そして精霊たちとの接触を保つため、さまざまな儀礼を作りあげたのです。

縄紋時代や弥生時代の品々には、現代人には理解できないものがあります。

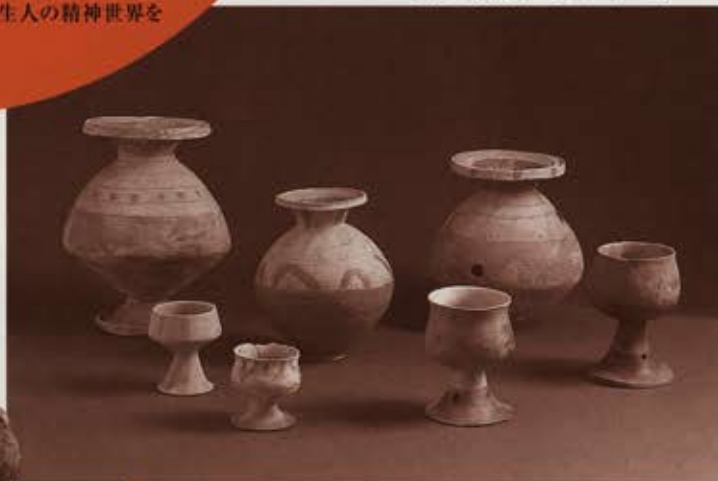
それらは神の姿であり儀礼の道具なのです。生活と密接に結びついた祈りの道具から、縄紋人と弥生人の精神世界を垣間見たいと思います。

■ 赤く塗られた弥生土器

【弥生時代後期 愛知県朝日遺跡】

縄紋と弥生の世界

三内丸山遺跡の土器やさまざまな道具、芸術品とも言える縄紋土器、そして赤く塗られた弥生土器などから「縄紋」「弥生」という時代を紹介します。



■ 扁平な土偶 【縄紋時代中期 青森県三内丸山遺跡】

崇拜のかたち

石棒や不思議なかたちの道具そして銅鐸、鳥形や武器形の木製品へという流れから、縄紋時代から弥生時代への儀礼の変遷をたどります。

神のすがた

縄紋時代の土偶や岩偶、弥生時代の木偶などを展示し、人々が思い描いた神のすがたをご覧ください。



■ 手を合わせ、祈る姿の土偶 【縄紋時代後期 青森県風張遺跡 重要文化財】



■ 男根を模した鹿角製品 【縄紋時代晩期 宮城県沼津貝塚】



■ 土で作った人形 【弥生時代前期 愛知県松河戸遺跡】



■ 木で作った人形（木偶） 【弥生時代中期 滋賀県扇丸崎遺跡】



■ 祭りに使った木製品 【弥生時代中期 愛知県朝日遺跡】

主な展示物

縄紋時代

- 今話題の三内丸山遺跡の土器、土偶、ヒスイなど
- 手を合わせ、祈る姿の土偶【青森県風張遺跡、重要文化財】
- 子供の手形や足形をつけた土製品【青森県大石平遺跡、重要文化財】

弥生時代

- 弥生時代前期の人形土製品【愛知県松河戸遺跡】
- 赤彩で飾られた弥生土器【愛知県朝日遺跡】

出品総数448点 内、重要文化財 重要美術品87点